

未来に向かって 一人ひとりが輝く北っ子！

いずみ会さんによる調理実習

秋の夜長と風の音・虫の音

『秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに・・・
日入り果てて風の音、虫の音などは言ふべきにあらず』



枕草子の第一段「春はあけぼの・・・」で始まるおなじみの文章、筆者の清少納言は、秋は夕暮れ時からすや雁が飛ぶ情景、そして日没後の風の音や虫の音が風情があってよいと言っています。

毎年、地蔵盆の頃でしょうか、夜、網戸の向こうの暗がりから、虫の鳴く声が聞こえて来て、「あ、秋がもうやってきているな」とよく思ったものですが、さて、今年は・・・？

いつも秋の訪れに気づいていた8月の下旬は、夜になっても気温が下がらず、窓を閉め切ってクーラーをかけていたので、虫の音は私の耳には届きませんでした。猛暑のせいで、風情ある季節の変わり目を聞くことができず、残念です。では、風の音はどうでしょう。

『秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ おどろかれぬる』

（秋が来たとは目にははっきりとは見えないけれど、さわやかな風の音で秋の訪れにはっと気づかされたことです）

これは、古今和歌集の藤原敏行の和歌です。

残念ながら、私の耳では風の音の変化はよくわかりません・・・というより、私が、そのようなかすかな音の変化が聞き取れるほどの「静けさ」の中で暮らしていないからわからないのでしょうか。朝、起きればすぐに時計代わりにテレビのスイッチを入れ、ずっとつけっぱなしの生活です。騒々しい現代に生きる私たちは、時々、テレビを消し、静けさの中で、虫の音や風の音を聞いたり、読書をしたりすることが、心のためにも、刺激で疲れている脳のためにも大切だと思います。子ども達にとってもそれは同じことではないでしょうか。



スクールサポートスタッフさんの読み聞かせ（給食準備中）

北小では、毎学期、「北っ子ぐんぐんカード」に取り組んでいます。この取組は、子どもの基本的な生活習慣の定着や学力の向上をねらいとしています。また、ノーゲーム・ノーメディアを意識することで、過度なブルーライトの接触時間を減らし、自分自身の時間、家族との団らん・人と人とのつながりの時間を大切にしようというねらいもあります。2学期の期間は、10月16日～22日までです。テレビのスイッチを消し、ゲームやスマホも遠くに置き、虫の音や風の音に耳を傾けながら、お子様とお話したり、一緒に読書したり、秋の夜長を楽しんでいただけたら嬉しいです。

【1学期のぐんぐんカードふりかえりより】

- ・テレビ見たい、と思ったけど、お絵かきしたり、弟と遊ぶ時間が少し増えた。またこれからも続けたい。（児童）
- ・今回はかなりメディア見る時間を少なくしましたね。トランプが新鮮で盛り上がりました。弟もおじいちゃんも喜んでいましたよ。（保護者）